



深山の桜

令和 2年 2月
第 14号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

夢を目標へと変える力を身につけたい

夢をグーグルで調べたら、睡眠中あたかも現実の経験であるかのように感じる、一連の観念や心境のことがあります。さらに読み進めると、将来実現させたいと思っっていること・願望・願いとありました。

よく似た言葉で、目標というのがあります。調べてみると・・・。

「そこに行きつくように、またそこから外れないように、目じるしとするもの。」

「行動を進めるにあたって、実現・達成を目指す水準」とありました。

先日、他社を訪問した際に、壁に掲げられていた言葉が気になりましたのでご紹介します。

「夢」

「夢のある者は、希望がある。 希望のある者は、目標がある。」

「目標のある者は、計画がある。 計画のある者は、行動がある。」

「行動のある者は、実績がある。 実績のある者は、反省がある。」

「反省のある者は、進歩がある。 進歩のある者は、夢がある。」

ご存じの方も多いと思いますが、吉田貞雄氏の夢八訓です。夢が希望や目標を生み、計画を立てる。計画をコツコツと実行すると実績となる。驕ることなく、反省し、努力することで夢に一步近づくとという話。

私たち福祉の世界でも、これによく似た「PDCAサイクル」という言葉があります。

P「プラン」⇄D「ドゥ」⇄C「チェック」⇄A「アクション」⇄改善及び進歩」です。

このサイクルを繰り返すことで、徐々に物事の本質に近づくことができ、絶え間ない学習が重要であるということを示唆しています。人は、少し物知りになると、自分が偉く思えて勉強しなくなります。でもそれは間違いで、夢を実現する人の多くは、手に届く目標を、努力していくつもクリアしている人だと思えます。そこで得た知識や行動、出会った人すべてが実績であり、自己実現に向かうための進歩だと考えます。今自分は、十分な努力を發揮できているのか、もう一度反省し、CからAに移行し、更にはPを実行できるように頑張りたいと思います。

たまたま立ち寄った会社で、こんなに素晴らしい詩に出会えて、気持ちを新たにできた私はとても幸せです。

グラブハート 所長 久保成明



深山の桜

令和 2年3月
第15号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の魅力に少しずつ気づくようになる。はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、だんだん細い道となる。その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

一以つて之を貫く

「一以つて之を貫く」と読みます。これは、論語の一説にある、孔子が弟子に向けて発した、自身の生き方を説いた有名な言葉です。

「一」とは、単純に数字の「一」ではなく、「一切」という意味で、自分の生き方一切が、一貫して変わらないうこと(信念)を述べた言葉であると言います。ただ頑固一徹ではなく、柔軟な考えを持ち、己が謙虚であることで、調和が計れることが前提として必要です。(すなわち仁の心です。)

孔子が貫こうとしたことは、慈しみと思いやりの心(忠恕)であると言われています。

私たちは福祉サービスを提供する事業所の支援員ですが、理不尽なことや、我慢がたい体験を過去に何度も乗り越えてきましたし、そういう体験がバネとなって、寛容さや思いやりが育まれてきたのだと思います。(まだまだ未熟ですが…)。

グラブハートの職員は、自分のことを後回しにしても、不安を抱えている利用者の話しを傾聴したうえで、ときに時間外であっても訪問し、励ます行動ができる人たちです。まさに忠恕ではないでしょうか。

それができるのは、「わが社」をよくしたいという気持ちや、自分自身を高めることで、利用者さんの生活や自立への手伝いができるようになりたいなど、心の底から思ってくれているからだと確信しています。

私は、そのような社員一人一人の熱意で動く会社の羅針盤として、次のことを貫こうと思います。

- ① 私は、社員が成長の糧とされるよう、常にアンテナをはって、自己研鑽を惜みず、之を貫きます。
- ② 私は、社員が成長できたことを社内で活かせる社風や仕組みをつくること、之を貫きます。
- ③ 私は、社員に對して、労いと励ましを言葉で伝える努力を惜みず、之を貫きます。

三月から新しく放課後等デイサービス「ぼこあぼこ」が開設しました。グラブハートの管理面がおろそかになっていた矢先、社員が協力して事業運営の提案や改善に向け、様々な行動を始めてくれました。

それぞれの社員が「一以つて之を貫く」の意味を理解し行動の柱に据えて頂ければ、わたしはとても幸せです。

グラブハート 所長 久保成明



深山の桜

令和 2年 4月
第 16号

深山の桜は、上手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

和顔愛語を意識した行動を振り返る

仏教の用語で「和顔愛語」という言葉があるのはご存じでしょうか？

読んで字のごとく、和やかな表情で、慈愛のこもった言葉という意味です。以前、この深山の桜でもご紹介した、人格を高めるための20の徳目にも入っています。

人は心で感じたことを脳で分析し、表情や語調で表すため、よく「君は正直者だね。顔にそう書いてあるよ。」なんて言われた経験がある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、この表現は、人に対して良い影響を与えている比喩表現ではなく、どちらかというと、相手が、その行動や顔つきを見て、不愉快だとか、「もつとこうしたらいいのではないか」など、関係性が悪くなるのを避ける目的で、直接伝えず、冗談交じりに伝える手法だと考えます。

私は、皆様が想像する以上に鈍感で、よく周囲の方に不快さを与えてしまい、身近な妻には、特にその傾向が強くなるようです。

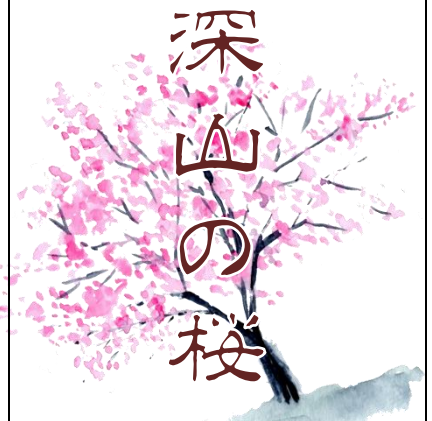
言い方一つにしても、高圧的で優しさがなく、枕詞もないと、よく叱られます。以前学んでいた素心学塾塾長から、講話のなかで一冊の本を紹介いただきました。題名も内容もかたが苦しくて、その当時は、読む気もしなかつたのですが、壁にぶつかったときや、感情が高ぶって、判断力が鈍った時などに、自分の行動を振り返るきっかけとなることから、時々ページを開くようになりました。

その本は、「しょうぼうげんぞう正法眼蔵」と言います。私のような、仏教のことなどほとんど知らない人間でもわかるように、現代訳されていて、難しいですが、何かが伝わってくる味わい深い本です。そのなかに、愛語に関する記載がありましたのでご紹介します。

「布施とは、与えることである。ものを与えるばかりでなく、心を与え、命を与え、真理を与える。」
「愛語というのは、人に会ったときに慈愛の心を起こして、優しい言葉をかけることである。決して、暴言や悪言を用いないことである。」

長い文章の要約に「優しい気持ちを持つばかりでなく、相手を正しく導いていくのが愛語である。」と書いてあり、感銘するとともに、一企業の指導者として、社員やご利用者、身近な家族に對して、和顔愛語が足りていないことを痛切に感じました。だから、気づいたら行動です。世の中がどんなに変わろうとも、二千五百年前から、連綿と語り継がれることは、真理であるとわたしは思います。悩んで、自分が想い、感じたことを実行できるフィールドがある私は、とても幸せです。

グラブハート所長 久保 成明



令和 2年 5月
第 17号

深山の桜は、上手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

学びの姿勢とはどういうものかを考える

「学・思・行・伝」という言葉をご存じでしょうか？ ネットを探しても、出てこないと思います。
10年ほど前、自己の習慣や行動を根本から見直したいと思っただけの本にこの言葉があり、懐
く、ストーンと落ちたのをいまでも鮮明に覚えています。

「学」とは、学習する。基本を学び、仲間と研鑽し合うこと。

「思」とは、復習する。学んだことを、自分自身に置き換えて思い返すこと。

「行」とは、行動する。その学びを生かすこと。

「伝」とは、伝える。さらに学びを深め、自分自身を正していくこと。

深山の桜12号で、自己の反省を踏まえた論語の一説をお伝えしたのは覚えていらっしゃるでしょうか？
子曰く「学びて時に之を習う。亦説ばしからずや」

学問をし、機会あるごとに復習をすると、確実に自分の身につく、なんとよこばしいことでしょうか。

「説」は「悦」と読み替えることができます。「悦」とは、心のしこりが解けて、はればれとしたさまを
表します。

新しい事業が増え、後輩ができた会社の社員さんは、先生なわけです。今までと同じ行動を、振り返
りもせず、根拠もなく、我流で行い続けると、きつとその人は、いつの日か、信頼を失い、周囲から人が離
れて、何のために仕事をしているのだろうか、他人や会社の批判をし始めると私は思います。

社員には、人生の書（自分が岐路に立った時に、立ち止まって考える、行動のヒントを与えてくれるよう
な書物）を1冊持つようお願いをしています。

「過ちてあらためざる、これを過ちという。」先人が残してくれた素晴らしい言葉と、その意味をしかり
と噛みしめて、自己の欠けているところを謙虚に反省する。必ずどこかへ糸口が隠されています。しかしそ
れは、字面（じづら）を遡って、読まされた本では、何の役にも立ちません。何度も何度も読んで、自分の行動と照
らし合わせて、「よし、明日からこうしてみよう。」と行動する。行動した結果を復習し、更に行動す
る。良い結果は共有（伝）する。学思行伝は、学びの姿勢そのものだと感じます。自分が成長した分し
か、会社も部下も成長しないことを、私は知っています。それぞれの立場で、小さな気付きを学びに結び
付け、周囲を巻き込んで、謙虚に確かめる方が一人でも増えて頂ければ、私はとても幸せです。

